

保冷車

取扱書

よくお読みになってご使用ください。

取扱書は車の中に保管しましょう。



はじめに



このたびは保冷車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は保冷車を安全・快適にお使いいただくため、保冷車独自の装備に関して正しい取り扱いを説明してあります。




また、保冷車装備の点検・手入れについても記載してありますので、ご使用前に必ずお読みください。

- 車両の一般的な取り扱いについては、標準車の「取扱書」(別冊)をご覧ください。
- 販売店で取り付けられた装備の取り扱いについては添付されている取扱書をご覧ください。
- 安全・快適にお使いいただくため「まず読みましょう」は重要ですのでしっかりお読みください。

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」とその回避方法を下記の表示で記載しています。これらは安全のために特に重要ですので、必ず読んで遵守してください。

 警告	記載事項をお守りいただかないと、生命にかかわるような重大な傷害、事故につながるおそれがあること
 注意	記載事項をお守りいただかないと、傷害、事故につながるおそれがあること

お車のために必ず守っていただきたいことや知っておくと便利なこと、してはならない行為を示すイラストは、下記の表示で記載しています。

 アドバイス	お車の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと お車が故障したときにしていただきたいこと
 知識	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと
	してはならない行為

- ・お車をゆずられるときは次のオーナーのために本書をお車につけておいてください。
- ・ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

CONTENTS (目次)

まず読みましょう 2

上手な使い方 5

各部の名称..... 7

専用装置、装備の使い方..... 8

バックドア	8
半ドア警告灯	11
ルームランプ	12
非常警報ブザー	12
水抜き穴および水抜きホース	13

手入れ、点検・整備項目..... 14

定期点検整備	14
消耗部品	15
簡単な点検	16
車の手入れ	18

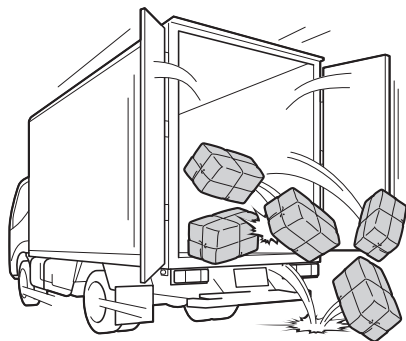
定期点検整備記録簿 21

まず読みましょう

確認しましたか？

走行前にバックドアが確実にロックされていることを確認してください。

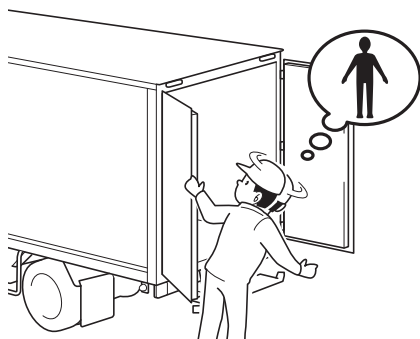
確実にロックされていないと、走行中にドアが開き、積荷の落下など思わぬ事故につながるおそれがあります。



危険です！

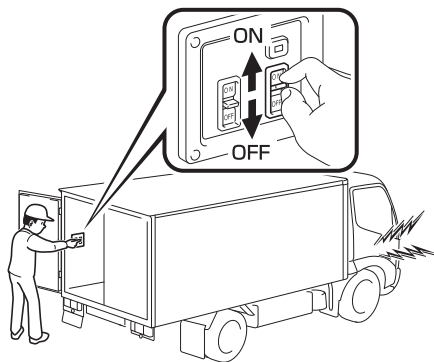
バックドアを閉めるときは、必ず荷室内に人がいないことを確認してください。

荷室内に人が閉じこめられると、中からドアを開けることができず、重大な事故につながるおそれがあり危険です。



非常警報ブザーが作動すること（スイッチ「ON」でホーンが鳴ること）を運行前に確認してください。

装置が正常に作動しないと、万一荷室内に人が閉じこめられたとき、外部に知らせることができず、重大な事故につながるおそれがあり危険です。



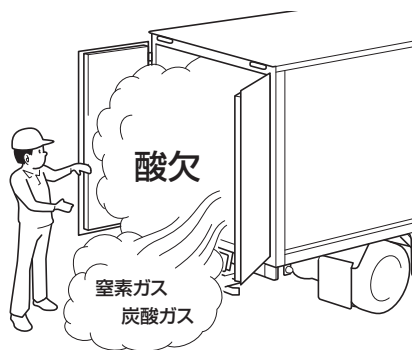
作業時には必ずドアをドアストップで固定してください。

固定しないと風などにより、不意にドアが動いたり、傾斜地では自然にドアが動くことがあり、けがをするおそれがあります。



バックドアを開けてすぐ荷室内に入らないでください。

ドライアイスや液体窒素などの寒剤を使用している場合は、ドアを開けてしばらくたってから（約3分間）、荷室内に入ってください。酸欠で重大な健康障害を受けるおそれがあります。



気をつけて

荷室内に乗り込んで作業するときは、滑りにくい靴などをはいてください。

荷室内は水などで濡れていると滑りやすいため、転倒するおそれがあります。滑りにくい靴をはき、水や雪を十分落としてから作業してください。



ルーフ上にのぼらないでください。

ボデーの損傷やルーフからの転落など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 積雪時、ルーフにのぼっての雪かきは絶対に行わないでください。



走行するときは

やむを得ない場合以外は、急ブレーキ、急ハンドルはしないでください。

荷くずれ、積荷の移動、落下のもととなり、積荷の破損の原因になります。

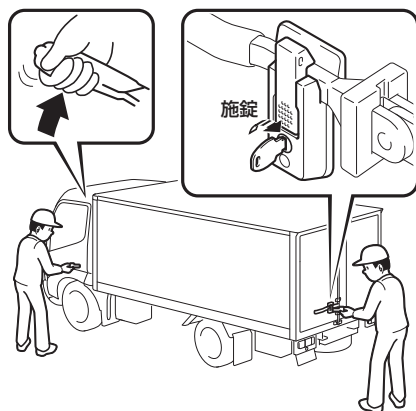
- 走行時は積荷が滑ったり移動しやすいため、角のとがった荷物を積むような場合は、必要に応じフロアにマットやすのこを敷くと効果的です。



車から離れるときは

パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを止め、荷室内に人がいないことを確認し、バックドアを施錠してください。

- 無人で車が動き出したり、盗難のおそれがあります。
- 誤って荷室内に人が閉じこめられると、中からドアを開けることができず、重大な事故につながるおそれがあり危険です。
- 施錠していても車内に貴重品をおいたままにしないでください。

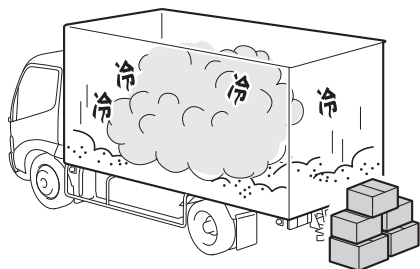


上手な使い方

荷物を積むときは

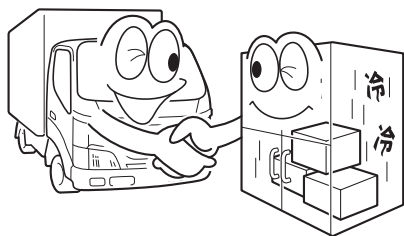
冷やして運ぶ荷物の場合は、荷物を積む前に荷室内を十分冷やしてください。

荷室内が必要温度に冷える前に荷物を積み込むと、荷物の温度が上昇します。



荷物はあらかじめ適温に冷やしてください。

荷物を積み込む場合は、他の冷凍機などで十分に荷物の温度を適温まで下げてからご使用ください。



ドアの開閉はすばやく

1回のドアの開閉でも荷室内の温度が上昇します。

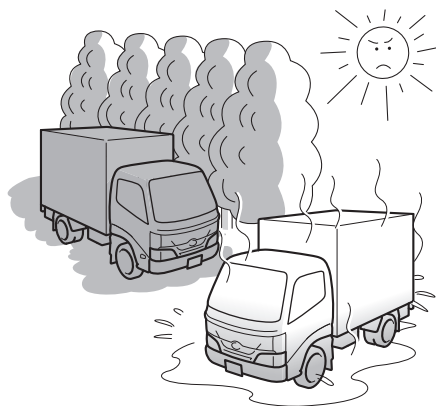
- ドアの開閉はすばやく行い、少しでも冷気が逃げないようにしてください。
- ドアの開閉回数が多いときやドアを開けている時間が長くなってしまうと、荷物の温度が維持できなくなります。



駐停車するときは

駐停車は日陰で行ってください。

駐停車中の直射日光は、保冷ボデーの外板を熱し壁面からの熱の侵入を増大させます。保管場所、休憩時の駐車、荷物の積み込み、積みおろし作業などもできるだけ日陰を選び、熱の侵入を防いでください。



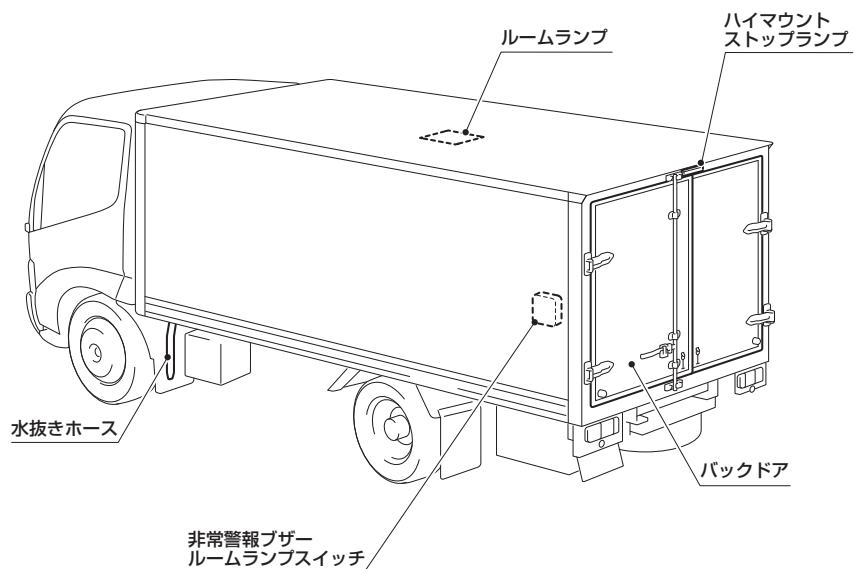
積荷の温度管理

保冷車は、積荷を冷却・冷凍することはできません。温度管理を必要とするときは、次の『■品目別輸送適温表』を参照して寒剤（ドライアイス、氷など）を使用し、荷室内を適温に維持してください。

■品目別輸送適温表

-20 -15 -10 -5 0℃ 5 10 15 20					-10 -5 0℃ 5 10 15 20				
(冷凍食品)					(生鮮果実類)				
冷凍果汁,濃縮ジュース	■				ぶどう,いちご			■	
冷凍魚介類	■				りんご		■		
冷凍牛豚肉	■				さくらんぼ,すもも		■		
冷凍鶏肉	■				メロン,梨類		■		
冷凍ハム	■				オレンジ,もも			■	
調理冷凍食品	■				パイナップル			■	
(生鮮肉類)					(生鮮野菜類)				
生ベーコン				■	レモン,グレープフルーツ				■
生豚肉				■	バナナ				■
生牛肉				■	(生鮮野菜類)				
生鶏肉				■	アスパラガス			■	
生ハム				■	人参,かぶら			■	
生羊肉				■	カリフラワー,グリーンピース			■	
卵				■	生花類			■	
ラード,ソーセージ				■	セロリ,レタス			■	
くん製ベーコン					きゅうり,なす			■	
塩漬けハム					ほうれん草			■	
(乳製品)					(菓子類)				
マーガリン				■	じゃがいも,たまねぎ			■	
チーズ				■	さつまいも,かぼちゃ			■	
牛乳,生クリーム				■	トマト				■
バター				■	(菓子類)				
(生鮮魚貝類)					(菓子類)				
かき,半加工品				■	洋菓子,イースト			■	
鮮魚,えび,かに,貝類				■	はちみつ			■	
くん製魚類				■	チョコレート,キャンデー				■
(生鮮魚貝類)					(その他)				
かき,半加工品				■	生ジュース			■	
鮮魚,えび,かに,貝類				■	そうざい			■	
くん製魚類				■	生めん			■	

各部の名称



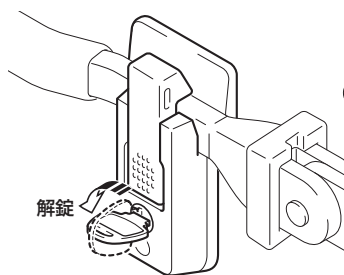
専用装置、装備の使い方

バックドア

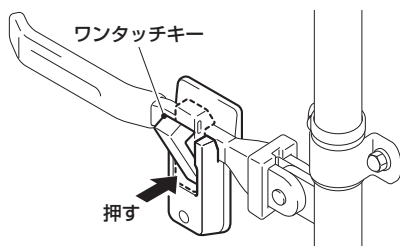
左ドア→右ドアの順に開けます。

■左ドアの開け方

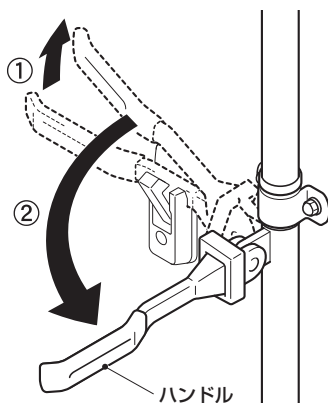
- ① 左ドアのシリンダ錠にキーを差し込み、左に回転させ、解錠します。



- ② ワンタッチキーの下側を押します。



- ③ ハンドルを持ち上げ (①)、手前に回します (②)。



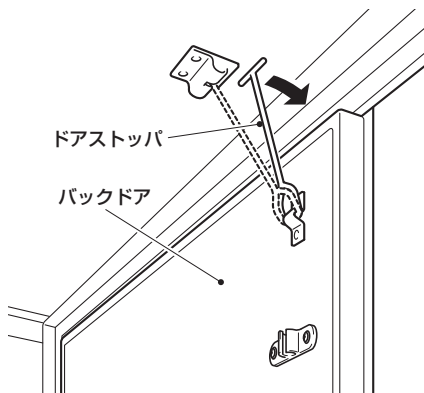
- ④ ハンドルを手前に引き、左ドアを開けます。

👉 アドバイス

ドアを全開にしたときにハンドルがサイドパネルに当たることがありますので、ハンドルはもとの位置にもどしておいてください。

■ 右ドアの開け方

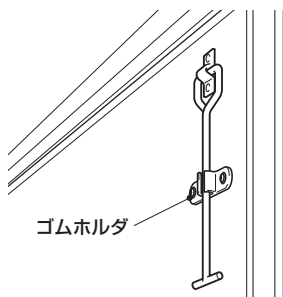
- 1 バックドア内側上部のドアストoppaをはずします。



🎓 知識

右ドアを車外から押しながら行くと、ドアストoppaがはずしやすくなります。

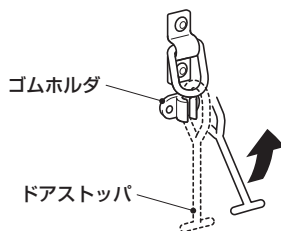
- 2 ドアストoppaをゴムホルダに差し込みます。



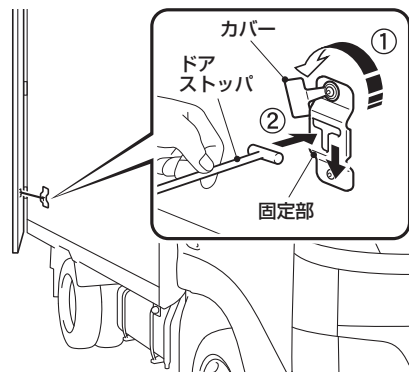
■ 固定のしかた

バックドアを全開にしたときは、バックドア外側下部のドアストoppaで固定してください。

- 1 ドアストoppaをゴムホルダからはずします。



- 2 カバーを開け (1)、ドアストoppaを固定部に差し込みます (2)。



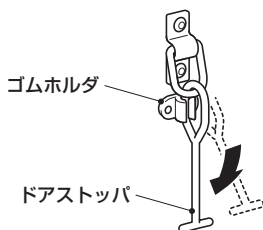
- 3 カバーを閉めます。

⚠️ 注意

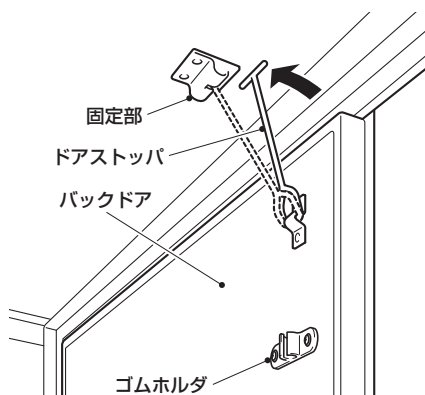
作業をするときは、必ずドアを全開にし、ドアストoppaでドアを固定してください。風などで不意にドアが動いたり、傾斜地では自然にドアが動くことがあり、ドアでけがをしたり、通行人を傷つけるおそれがあります。

■右ドアの閉め方

- 1 右ドア外側下部のドアストップを固定部からはずします。
- 2 ドアストップをゴムホルダに差し込みます。



- 3 右ドアを閉めます。
- 4 バックドア内側上部のドアストップをゴムホルダからはずし、固定部に差し込みます。

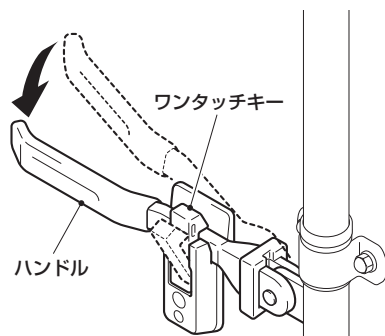


🎓 知識

右ドアを車外から押しながら行くと、ドアストップを固定部に差し込みやすくなります。

■左ドアの閉め方

左ドアのハンドルをワンタッチキーに差し込みます。(自動的にロックされます)

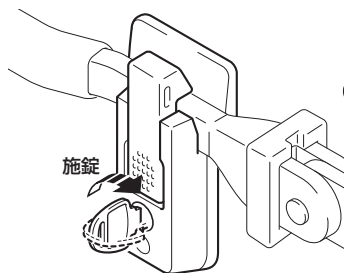


⚠️ 警告

バックドアを閉めるときは、必ず荷室内に人がいないことを確認してください。荷室内に人が閉じこめられると、中からドアを開けることができず、重大な事故につながるおそれがあります。

■施錠のしかた（左ドアのみ）

キーをシリンダ錠に差し込み、右に回転させると施錠されます。

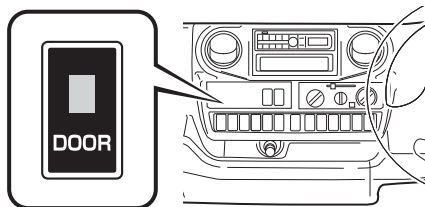


⚠ 警告

車から離れるときは、必ず荷室内に人がいないことを確認し、バックドアを閉め施錠してください。誤って人が荷室内に閉じこめられると、中からドアを開けることができず、重大な事故につながるおそれがあり危険です。また、盗難のおそれもあります。

半ドア警告灯

エンジンスイッチが「ON」のとき、バックドアが確実に閉められていないときに点灯します。



⚠ 警告

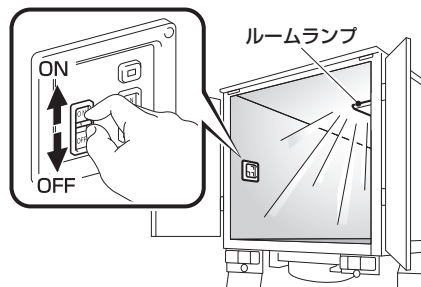
警告灯が点灯したまま走行しないでください。ドアが確実に閉まっていないと、走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。点灯した場合は、再度荷室内を確認してから確実に閉めてください。

ルームランプ

荷室内左側後部にルームランプスイッチがあります。

ON.....左バックドアを開けたとき点灯し、閉めると消灯します。

OFF.....ドアの開閉に関係なく消灯します。



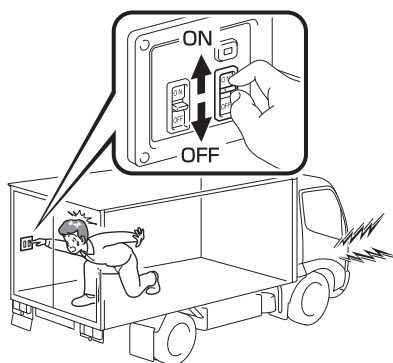
アドバイス

- 作業終了後や長期間車を使用しないときは、必ずスイッチを「OFF」にしてください。バッテリーあがりの原因となります。
- 点灯回数で寿命が変わります。必要なとき以外は「OFF」にしてください。

非常警報ブザー

万一、荷室内に閉じこめられた場合に、荷室内から車のホーンを鳴らすことができる装置です。

スイッチを「ON」にすると車のホーンが鳴り、荷室内に人が閉じこめられたことを知らせます。

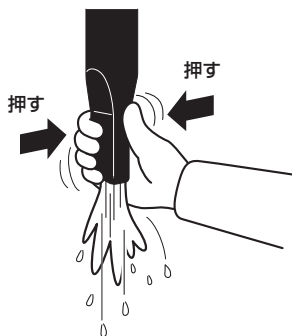
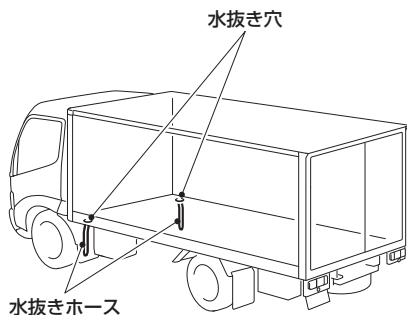


警告

非常警報ブザーが作動すること（スイッチ「ON」でホーンが鳴ること）を運行前に確認してください。装置が正常に作動しないと、万一荷室内に人が閉じこめられたとき、外部に知らせることができず、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

水抜き穴および水抜きホース

荷室内を水洗いをしたときは、ホース先端を開いて水を荷室外に出してください。



アドバイス

水抜きホースに損傷がある場合は、早めに交換してください。亀裂や破損したホースを使用し続けると冷気が逃げ、保冷能力が低下するおそれがあります。

手入れ、点検・整備項目

定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために定期点検整備をお願いします。

点検結果を記録する際には、21ページの記録簿をA4サイズにコピーして使用してください。

点 検 整 備 項 目	点検時期		交 換 時 期 (年)	備 考
	日 常 点 検	12 か 月 ご と		
電 気	非常警報ブザーの作動 ルームランプのON/OFF 半ドア警告灯のON/OFF ハイマウントストップランプのON/OFF	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	スイッチ「ON」でホーンが鳴ること ブレーキペダル踏み込み時、点灯すること
ド ア	バックドア ・ 開閉時の作動状態 ・ シールの摩耗・破れ	○ ○	○ ○	確実にドアが閉まり、半ドア警告灯が消え、引っかけり・異音がないこと
リ ヤ ボ デー	内外板の錆・破損・異常な浮き上がり ステップの曲がり・破損・ステーの変形 シャシとの締結ボルトの締め付け ボデー床下フレーム締結ボルトの締め付け 水抜きホースの変形・つぶれ マウンティング部のシムの摩耗	○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	

消耗部品

下記部品は使用頻度・経年変化等により、消耗・劣化する部品です。
点検時に摩耗や損傷状態を見て早めに交換してください。

●交換作業は販売店にお申しつけください。

ドアウェザーストリップ、水抜きホース、電球・ヒューズ類、油脂類

簡単な点検

ヒューズの点検・交換

装置が正常に作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。
ヒューズが切れたときは、必ず規定容量のヒューズと交換してください。
●標準車取扱書の『ヒューズの点検、交換』をあわせて参照してください。

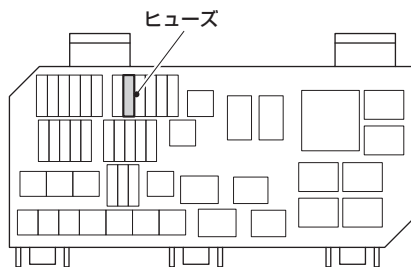
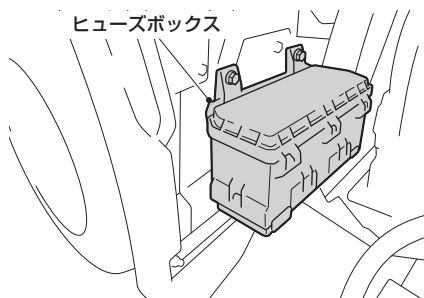
警告

規定容量以外のヒューズを使用しないでください。配線が過熱・焼損し、火災になるおそれがあり危険です。

アドバイス

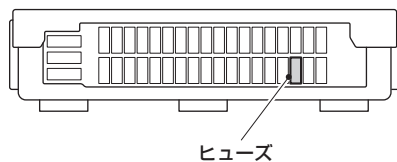
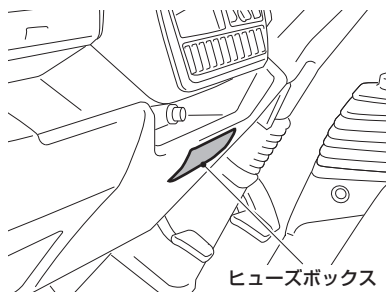
取り替えてもまたヒューズが切れる場合は、販売店で点検を受けてください。

■ 室外ヒューズボックス



ヒューズ位置	ヒューズの受け持つ主な装置名称
P/OUTLET NO.3	ルームランプ
	非常警報ブザー

■室内ヒューズボックス



ヒューズ位置	ヒューズの受け持つ主な装置名称
P/OUTLET NO.5	半ドア警告灯

灯火類

種類	ワット数
ルームランプ	12V/20W
ハイマウントストップランプ	12V/1.3W

車の手入れ

日頃の手入れ

車をいつまでも美しく保つためには日頃の手入れが必要です。

■ 次のような場合は、ただちに洗車をしてください

塗装の劣化や車体・部品の腐食などを早める原因となります。

- 海岸地帯の走行をしたとき
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下の多い場所を走行したとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

■ 塗装について

- 飛び石傷やかき傷は、ボデーの腐食の原因となりますので、見つけたら早めにタッチアップペイントなどで補修してください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤が付着したときは、塗装を損傷しますので、ただちに拭き取る、洗車するなどしてください。

■ 外板の手入れ

水洗いをします。

- 汚れのひどいときは、中性洗剤を使用します。
- 毛の硬いブラシなどは使用しないでください。

■ 内板の手入れ

- 1 水洗いをします。
- 2 水抜きホースを押して開き、水を出します。



アドバイス

特に塩分を含む荷物を輸送した後は、錆が発生しやすいため荷室内を十分洗浄し、塩分が残らないように乾燥させてください。

■ 水抜き穴の手入れ

穴の中にゴミがたまっているときは、水抜き穴および水抜きホースを掃除して、目づまりのないようにします。



アドバイス

水抜き穴が目づまりしていると荷室内が水でぬれ、積荷が損傷するおそれがあります。

MEMO

■その他必要となった点検整備の内容および
主な交換部品

12か月定期点検整備記録簿
分解整備記録簿

確認なし	異様なし	交換	X	締付	T	清掃	C
調整	A	修理	△	分解	○	給油	L
						給油	L
						省路	P

点検の結果および(分解)整備の概要

- 電気廻り点検
- 非常警報ブザーの作動
 - ルームランプのON/OFF
 - 半ドア警告灯のON/OFF
 - ハイマウントストップランプのON/OFF

- ドア廻り点検
- バックドア
 - 開閉時の作動状態
 - シールの摩耗・破れ

- リヤボデー廻り点検
- 内外板の錆・破損・異常な浮き上がり
 - ステップの曲がり・破損・ステアの変形
 - シヤシとの締結ボルトの締め付け
 - ボデー床下フレーム締結ボルトの締め付け
 - 水抜きホースの変形・つぶれ
 - マウンティング部のシムの摩耗

----- 依頼者の氏名又は名称 -----
 氏名又は名称
 ----- 依頼者の氏名又は名称及び住所 -----
 住所

----- メンテナンスに関するアドバイス -----

----- 型式 -----
 初年度登録または初年度検査年

自動車登録番号又は車両番号 (左記の無い車両にあっては、車台番号)
 自動車分解整備事業者の氏名又は名称及び事業場の所在地
 氏名又は名称

事業場の所在地

----- 取組又は指図番号 -----
 点検の年月日

分解整備 (点検) 時の総走行距離
 整備を完了した年月日

----- km -----
 年月日
 整備主任者の氏名

ボデー型式	
架装物名	保冷車
ボデーNo.	
お客様の業種・積載物	架装メーカー名 トヨタ車体(株)

保冷車

適用車種

トヨタ ダイナ



車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

〈本書の内容のお問い合わせは下記へお願いいたします〉

商用ビジネス部

TEL (0566) 36-2497 FAX (0566) 36-2498